
THE BEST OF GODZILLA
THE BEST SELECTED MUSIC FROM GODZILLA
TYCY-5465
"NOW" 1984-1995

THE BEST SELECTED MUSIC FROM GODZILLA "Now" 1984~1995

【ゴジラＶＳキングギドラ】

[1]オープニング（M1A, B）1'52"

【ゴジラＶＳメカゴジラ】

[2]ゴジラのテーマ（M40）3'19"

【ゴジラ（１９８４）】

[3]三原山～新宿副都心（M15）1'19"

[4]ゴジラ迎撃せよ（M19）1'52"

[5]GODZILLA Theme Medley '84（M31,M25,M12A）1'56"
「超高層の救出」～「スーパーＸのテーマ」～「防衛隊」

[6]ゴジラ新宿を去る（M40）1'25"

【ゴジラＶＳビオランテ】

[7]ゴジラ１９８９（Movie mix）5'59"

[8]スーパーＸ２（Movie mix）5'57"

【ゴジラＶＳキングギドラ】

[9]ゴジラザウルス（M13B）2'36"

[10]自衛隊出動（M6）0'39"

[11]キングギドラ福岡襲撃（M18B）3'42"

【ゴジラＶＳモスラ】

[12]モスラ赤坂へ（Mモスラ Slow）4'02"

[13]メーサーマーチ（M32）1'55"

[14]バトラ（Fast･Full）（MバトラFast･Full）1'43"

[15]エンディング（聖なる泉）（M37）1'59"

【ゴジラＶＳメカゴジラ】

[16]メカゴジラ出撃準備（M11）3'30"

[17]Ｇフォースマーチ（M16）2'50"

[18]ゴジラＶＳラドン（M6）5'02"

【ゴジラＶＳスペースゴジラ】

[19]スペースゴジラ・テーマー破壊神降臨ーⅡ
（スペースゴジラ・テーマ<テンポ・アップ>）3'27"

[20]リトルゴジラの悪戯（フルサイズ）（M16）1'39"

[21]ゴジラ・テーマⅡ
（ゴジラ・テーマ<テンポ遅め>）3'27"

[22]MOGERA Ready to GoⅡ（モゲラ出動42"）0'46"

[23]Hyper Battle Area Ⅱ
（サスペンス<テンポ・ダウン>）2'34"

【ゴジラＶＳデストロイア】

[24]メインタイトル・香港破壊（M3）3'09"

[25]レクイエム（M44A<フルサイズ>）3'49"

[26]新たなゴジラの誕生（M44B）0'34"

【ゴジラＶＳキングギドラ】

[27]ゴジラは死なず（M38, 23A）2'54"

TOTAL TIME：73'56"

作曲／編曲：伊福部　昭
[1][2][9][10][11][12][13][14][15][16][17][18][24][25][26][27]

作曲／編曲：小六禮次郎
[3][4][5][6]

作曲：すぎやまこういち／編曲：デービッド・ハウエル
[7][8]

作曲／編曲：服部隆之
[19][20][21][22][23]

PRODUCER MESSAGE



『空の大怪獣ラドン』『キングコング対ゴジラ』『日本誕生』……一連の特撮映画や、森谷司郎監督らの内藤洋子主演の青春もの。小中学生の頃、親に連れられて出かけた近所の映画館で映画を楽しんだ私が、ことのほか好きだった東宝の作品、中でも特撮ものと青春コメディー―でした。ですから、宣伝部から東宝映画に移って、『ゴジラＶＳビオランテ』を手伝うように言われたときは、待ってましたという気持ちと同時に、凄くラッキーだな、と思いましたね。東宝映画に来てやりたかったことの第一歩が達成できる、という意味で嬉しかったのです。

脚本作りの段階から参加した『ＶＳビオランテ』は、復活『ゴジラ』の総括からスタートしました。結果として、イベント性も考慮して行なったストーリー募集と、うちの田中（友幸）が城戸賞の選考者として毎年応募作を見続けていた中から白羽の矢を立てた大森一樹さんに脚本・監督をお願いすることによって、まったく新しい才能のゴジラ映画への導入が実現したと考えています。ゴジラの企画を閉ざされたものにせず、解放しようとしたことが、それから先のシリーズを作る原動力になったのではないでしょうか。

それ以降はほぼ年１作のペースで作品を送り続けてきたわけですが、１作毎に前作を上回る面白さを出すよう心がけたつもりです。ゴジラの対戦相手につきましても、“ゴジラの最大の敵はゴジラである”というコンセプトから生まれたメカゴジラやスペースゴジラ、かつての人気共演者であったモスラ、キングギドラなど、お客様の期待を裏切らないポテンシャルのあるキャラクターの創造に力を注いできました。

今回の『ゴジラＶＳデストロイア』では、シリーズの集大成・総決算ということで、初めて第１作『ゴジラ』を踏まえたドラマ作りをすることにより、42年にわたるシリーズ全部を一つの世界として完結させるという大それた試みに挑戦しています。これまで積み重ねられてきたゴジラ世界がもつ深さや蓄積を結集させることで、世代ごとのゴジラに対する思いの違いを超えて、42年間のすべてのお客様に楽しんでいただけるような完結編に仕上がったと思っています。

インタラクティブという言葉がありますが、私は、娯楽映画というものは作り手側とお客様との間に相互交換がないと長持ちしないと考えています。復活『ゴジラ』以降の作品の流れを一つの世界……ゴジラワールドとして共有して、その中で自由に楽しんでいただければ、これほど嬉しいことはありません。玩具であれ、ムック本であれ、すべてのアイテムがゴジラワールドという世界を楽しむためのツールだと思うのです。映画もその中の一つであり、最大の要素ではありますが、それが主で他が従とは考えない方がいいだろうとも思っています。

もちろん、音楽も重要な要素の一つです。私が関わった“ゴジラシリーズ”では、多くの作曲家の皆さんが素晴らしい音楽を書いて下さいました。時代を代表する娯楽といえる『ドラゴンクエスト』の音楽などで、私にとって魅力的な存在だったすぎやまこういちさん、新路線シリーズとして定めた『ＶＳスペースゴジラ』を音楽面から見事に支えて下さった服部隆之さん。

そして、キングギドラというゴジラ最大の対戦相手の登場に合わせて再び音楽監督を引き受けて下さり、今回の『ＶＳデストロイア』まで、計４作品と最多登板となった伊福部昭先生の存在は、やはり特別です。先生が生み出された「ゴジラのテーマ」は、世界の映画音楽の中でも屈指の存在だと思いますよ。理屈を超えた音楽の原始性と言うんでしょうか、身体とか心の一番奥底までプリントされるような力強さがありますから。これは凄いことですよ、映画を観終わって劇場から出てくる子供たちが、「ジャジャジャン」って口ずさんでいますから。

いずれにせよ、ゴジラワールドにどういう形で光を当てて、送り手と受け手側がいかに一緒に楽しむかということです。もちろん、音楽も例外ではありません。そういう風に皆で一緒に遊べるということが、ゴジラのもつ娯楽性の高さの証明だと思うんです。

ゴジラという世界でも一際高い山にどこから登るか。ゴジラシリーズが完結する時だからこそ、その全体を見渡すための方法論が求められていると思います。このＣＤは、音楽というルートからゴジラの頂上を目指す、確かなひとつの道となることでしょう。

株式会社　東宝映画
チーフプロデューサー
富山省吾

INTRODUCTION



『ゴジラｖｓデストロイア』。全22作に及んだゴジラシリーズに、ひとまずの終止符を打つ作品が完成した。原水爆実験で第二の生を受けた前世紀の怪物ゴジラは、この映画を最後に再び永い眠りに戻るのである。

今回のＣＤ企画は、ゴジラへの追悼盤をコンセプトに、シリーズの幾多の名場面を彩った音楽をベスト・コレクションしようというものである。長大なシリーズゆえ、ベスト・オブ・ベストの楽曲に限った選曲を行い、ギリギリのシェイプを目指しても、さすがに１枚のＣＤでは収録しきれない。そこで、ザ・ビートルズの赤盤・青盤よろしく、第１作『ゴジラ』から第15作『メカゴジラの逆襲』までをＰＡＲＴ１、第16作『ゴジラ』から第22作『ゴジラｖｓデストロイア』までをＰＡＲＴ２として、音楽を２枚のディスクに振り分け、それぞれに“ＴＨＥＮ”“ＮＯＷ”とのサブタイトルを冠することにした。本ＣＤは、その後期盤となる。

“ＴＨＥＮ”ではすべての楽曲を映画の製作順に並べたが、今回は収録作品のバランスを考慮した結果、音楽を作品の発表年代順に並べたメインブロックを、伊福部昭氏による代表的なゴジラ・テーマでサンドイッチするという変則的な構成を採っている。いわゆる“平成ゴジラ”と呼称される近年の諸作では、音楽監督を担当しているいないに関わらず、同氏のゴジラ・テーマが重要な役割を担って現れているからである。

選曲した楽曲の便宜上のタイトルに関しては、“ＴＨＥＮ”同様、いたずらに混乱を避ける意味と、本盤が良きサンプラーとしての任を担えるようにとの願いから、基本的に弊社発売の“ゴジラ大全集”“完全収録　伊福部昭特撮映画音楽”の２大全集に準じている。

繰り言となるが、日本が世界に誇る最大の映画スタァであるゴジラを生み出し、現在も大切に育み続けているすべての関係スタッフ諸氏、そして映画の楽しみ方を教えてくれた先達の評論家・ライター諸氏へ、最大級の感謝とともに本盤を捧げたい。

早川　優

COMMENTARY



1オープニング
（『ゴジラｖｓキングギドラ』よりＭ１Ａ、Ｂ）

低音楽器群が、深海の深い闇の中に沈む１体の怪獣の姿を厳かに描写する。ここで奏でられる旋律は、1964年の大作『三大怪獣　地球最大の決戦』に於いて宇宙超怪獣キングギドラに与えられたライトモティーフである。そして、オーケストラの全合奏による壮大なファンファーレ！　『ゴジラｖｓキングギドラ』の冒頭シーンの音楽は、ファンが夢想だにしていなかった伊福部昭本人による新作“ゴジラ”スコアの誕生をあたかも高らかに宣言するかのごとく、スクリーンの前で固唾を飲む観客のハートを揺さぶった。

復活第１作『ゴジラ』にはじまる、10年間の“ゴジラシリーズ”の歩みを綴った本盤。数ある音楽の中から冒頭を飾るにふさわしい１曲を選出することは、構成者一同にとって大いに悩まされたポイントだった。色々と悩んだ末、全員一致で文句なく決まったのがこの曲。ゴジラではなく、最大のライバル・キングギドラのテーマで冒頭を飾ることに異論を持たれる向きもおいでになると思うが、伊福部氏の新作特撮映画音楽と、かつての名スタァ、キングギドラのダブル復活を告げた記念すべきナンバーゆえということで、ご理解のほどを。

2ゴジラのテーマ
（『ゴジラｖｓメカゴジラ』よりＭ４０）

先ず金管楽器がゴジラの出現と恐怖を表現する５小節の重厚な主題を繰り返し提示する。続いて、弦楽器が緩やかに奏でるリズミカルな音形に導かれて、あの“ゴジラのテーマ”が登場する。あまりにも有名な第１作目『ゴジラ』（1954年）のタイトル音楽だが、その時点ではゴジラの脅威に立ち向かう人間側のテーマとして作曲されていたことはご存じだろうか。伊福部昭のトレードマークである＜オスティナート＞（ある一定のリズムパターンを執拗なまでに繰り返す音楽的手法）の典型だが、“ゴジラのテーマ”がこのようなスタイルに纏められたのは、氏のＳＦ怪獣映画の音楽をクラシックの演奏会用にアダプトした「ＳＦ交響ファンタジー第１番」の冒頭部が最初であり、平成時代のゴジラ映画の音楽ではゴジラの出現と進撃のテーマという意味合いで使われている。ここには、映画毎に演奏された数ある“ゴジラのテーマ”の中から、一際ダイナミックな『ゴジラｖｓメカゴジラ』のものを収録した。

ゴジラ

音楽：小六禮次郎
1984年12月15日公開／カラー／ビスタサイズ／103分
製作・原案：田中友幸／脚本：永原秀一／協力製作：

田中文雄
監督：橋本幸治／特技監督：中野昭慶
出演：田中　健、沢口靖子、宅麻　伸、小林桂樹ほか

伊豆諸島の大黒島の噴火から３ヵ月後、付近の海域で漁船「第五八幡丸」が消息を絶った、東都日報の記者・牧（田中　健）によって救出された唯一の生存者奥村（宅麻　伸）は、巨大生物を目撃したと証言。生物物理学者の林田教授（夏木陽介）は30年前に東京を襲撃した大怪獣ゴジラの再来を予見する。一方、日本近海でソ連原潜の沈没事故が発生、自衛隊機によってゴジラの存在が確認されるや、三田村首相（小林桂樹）を長とする日本政府はゴジラに関する報道を解禁。アメリカ、ソ連がゴジラに対する戦術核攻撃を迫るなか、ゴジラは静岡の井浜原発襲撃に続いて大都市東京に出現する。陸、海、空の自衛隊はその総力を挙げてこれを迎撃するが、あらゆる現用兵器も歯が立たず、破壊の限りを尽くすゴジラは、新宿超高層ビル街で自衛隊の最終兵器、カドニウム弾を搭載したスーパーＸと死闘を繰り広げる。

1954年の第１作『ゴジラ』の続編のスタイルをとった本作は、第15作『メカゴジラの逆襲』から９年のブランクを経て、ゴジラ復活を望む熱いファンダムの期待に応えて製作された超大作。かくしてゴジラは、怪獣映画の原点とも言うべき人類に対する恐怖の対象として、身長80メートル、体重５万トンにパワーアップした姿でスクリーンに復活した。各界著名人で構成された特別スタッフによる政治、科学、経済面の考証に裏打ちされたストーリーは、第１作以上に核兵器に反対する明確なテーマを打ち出し、橋本幸治による演出もゴジラシリーズの中でも特に政府関係者の対応をリアルに描いたものとなった。特撮面に目を移せば、『ゴジラ対ヘドラ』以降、東宝特撮のエースとしてゴジラを撮り続ける中野昭慶は、本作にその技術の集大成を見せ、マリオンのハーフミラーに映るゴジラは本作中でも屈指の名シーンとなっている。また、全高4.8メートルのサイボットゴジラが製作されたことも各方面で話題を呼んだ。なお、本作はゴジラ誕生30周年記念作品である。

3 三原山～新宿副都心（M15）

ゴジラ出現によって日本全土に緊急非常体勢が敷かれる中、米ソ両国は日本国内での戦術核の使用を申し入れる。非核三原則を重んじ、核を使わずにゴジラを排除する方針を頑なに主張する三田村首相に、長年ゴジラの研究を続ける生物物理学の権威・林田教授は、帰巣本能を刺激する超音波を使ってゴジラを伊豆大島・三原山の火口内に誘導、人工的な噴火を起こしてこれを葬り去るとの作戦を提言する。三田村首相は自衛隊の迎撃作戦と林田教授の三原山計画の双方の推進を命じた。

曲は、林田教授の依頼を受けた地質学者の南（小泉博）とゴジラの第一目撃者の奥村が三原山の火口を調査するシーンに流れる、雄大な三原山を描いた音楽である。後半の低弦と金管の反復的律動は、場面が変わって夜の新宿高層ビル街を上空から撮影したシーンである。

4 ゴジラ迎撃せよ（M19）

静岡県の井浜原発を襲撃した後、暫しの間海中に潜伏していたゴジラは、遂に東京湾にその巨体を現した。Ｆ－１戦闘機の迎撃をものともせず、水飛沫を上げて陸を目指すゴジラ。巨獣の咆哮が今また東京湾に響きわたる。

総勢60余名からなるオーケストラのフルパートがゴジラの威容を劇的に歌い上げる、新たなゴジラ音楽の担い手、小六禮次郎版の“ゴジラのテーマ”である。曲の最高潮で象徴的に奏でられる、密集和音の鮮烈な響きが素晴らしい。注意深く聴いてみると、伊福部昭のゴジラサウンドの隠し味であるコントラファゴットやグラン・カッサ（オーケストラで用いられる大太鼓）の重低音が、ここでも効果的に使用されているのに気が付く。

5 GODZILLA Theme Medley '84
「超高層の救出」～「スーパーＸのテーマ」～「防衛隊」

小六禮次郎が『ゴジラ』のために作曲した映画音楽は、先の“ゴジラのテーマ”を始め“ヒロイン”“自衛隊”“スーパーＸ”などキャラクター毎に設けられた明確なライトモティーフと、ドラマの展開に密着したインシデンタルスコア（劇音楽）の巧みな配置が出色である。

このトラックは『ゴジラ』の音楽の中から、特に人気の高い自衛隊関連のモチーフを選んでメドレー形式に編集してある。「超高層の救出」（M31）は、ゴジラの破壊により高層ビルの最上階に閉じ込められた林田教授たちの救出作戦を展開する自衛隊ヘリのシーンの音楽。続く「スーパーＸのテーマ」（M25後半）は首都防衛移動要塞“スーパーＸ”が新宿でゴジラと対峙するシーンの勇壮なテーマ。最後の「防衛隊」（M12A）は、対ゴジラに向けて防衛線を張る“自衛隊のテーマ”から、自衛隊が総力を上げてゴジラを捜索するシーンのテイクである。

6 ゴジラ新宿を去る（M40）

東京に上陸したゴジラは銀座・有楽町を蹂躙、永田町を抜け新宿を襲った。紅蓮の炎に包まれ瓦礫の山と化した新宿副都心を舞台に、ゴジラと首都防衛の最後の砦スーパーＸの一大攻防戦が展開される。帝都東京の運命は如何に？

曲は新宿で破壊の限りをつくしたゴジラが、三原山から発せられた超音波に反応したのか、大島の方角にゆっくりと歩き始めるシーンのもの。カンパナ（鐘）と木管の寂しげな音色が三原山でのゴジラの運命を予感させ、ゴジラを待ち受ける三原山火口のカットでクライマックスを迎える。

『ゴジラ』（1984）録音データ
録音日：1984年10月10日、13日
スタジオ：青山ビクタースタジオ
ミキサー：中西俊一
指揮：中谷勝昭
演奏：東京交響楽団

ゴジラvsビオランテ

音楽：すぎやまこういち　ゴジラテーマ曲：伊福部　昭
1989年12月16日公開／カラー／ビスタサイズ／105分
製作：田中友幸／プロデューサー：富山省吾／原案：小林晋一郎
脚本・監督：大森一樹／特技監督：川北紘一
出演：三田村邦彦、田中好子、高嶋政伸、小高恵美ほか

三原山火口にその姿を消したゴジラにより、一夜にして瓦礫の山と化した新宿副都心では、自衛隊によってＧ（ゴジラ）細胞の回収作業が行われていた。回収された細胞は正体不明の一団に奪取され、密かに中東のサラジア共和国の研究所に送られるが、今度は米国のバイオメジャーの妨害工作により、研究所で働く遺伝子工学の権威・白神博士（高橋幸治）の愛娘・英理加（沢口靖子）は絶命し、博士は研究を中止する。

それから５年後、ゴジラ復活の兆候が見えはじめ、自衛隊は対Ｇ兵器ＡＮＥＢ（抗核エネルギーバクテリア）の開発を始め、白神博士と桐島一人（三田村邦彦）の手で研究は完成するが、一方で白神は英理加の形見のバラとＧ細胞を融合させ、巨大植物ビオランテを誕生させてしまう。やがて、バイオメジャーの工作で復

活を遂げたゴジラに対し、自衛隊は浦賀水道で護衛艦隊とスーパーＸ２の防衛線を張るが、ゴジラはこれをかわして芦ノ湖へ向かう。ここに、ゴジラとビオランテ、２大怪獣対決の時はきた！

東宝のゴジラストーリー公募に入選した小林晋一郎の原作による、平成ゴジラＶＳシリーズ第１弾。前作で見事に復活を遂げたゴジラが、バイオテクノロジーによって誕生した東宝初の植物怪獣ビオランテと対決する本作は、「ゴジラ映画史上空前のスーパーバトル」の名のもと、怪獣対決以上に自衛隊とゴジラの戦闘に焦点が絞られ、スーパーＸ２やメーサータンクといった架空兵器や、自衛隊の全面協力によって撮影された若狭湾のサンダービーム作戦のシーンなど、シミュレーションゲームの面白さをそのままスクリーンで楽しめる作品となっている。

ゴジラ映画初演出となった新鋭の大森一樹と川北紘一のフレッシュな感性は、スピーディで迫力ある名シーンの数々を生み出し、本作をゴジラ映画の新境地を開く金字塔たらしめている。なお、平成ゴジラシリーズに欠かせないエスパー少女・三枝未希（小高恵美）は、本作からの登場である。

7 ゴジラ1989（Ｍｏｖｉｅ Ｍｉｘ）

『ゴジラｖｓビオランテ』の音楽は、あらかじめ映画の内容に基づいて作曲された10曲のテーマ音楽が用意され、これをクランクアップ後に画面の細部に合わせて選曲・編集するという、ゴジラ映画としては変則的な方法が取られた。この10曲は全て公開当時に弊社からリリースされた『ゴジラｖｓビオランテ』のオリジナルサウンドトラック盤に収録されているが、以前から耳の良い音楽ファンの間で囁かれているように、実際に映画で使用されているのはアルバム用とは別にトラックダウンされたものである。

その真相はこうである。アルバムに収録されているのは、演奏会ホールでの雰囲気を再現するためにダイレクトに２チャンネル・ステレオに録音されたもので、作曲者すぎやまこういち氏の意向。一方の映画用マスターは、同じステレオでもセリフやＳＥをミックスした時点でのバランスを考慮して、マルチからのトラックダウンで作成されたものである。オーケストラの各楽器が若干左右に寄り気味なのは、セリフやＳＥをセンターに配置するためだろう。今回はこの映画用マスターからの収録であり、クレジットは＜ゴジラのテーマ＞となっていた。

映画では、アバンタイトルを始め、ゴジラと自衛隊の浦賀水道での攻防戦や、芦ノ湖と若狭での二度にわたるゴジラvsビオランテの死闘等のシーンに使用されていた。

8 スーパーＸ２（Ｍｏｖｉｅ Ｍｉｘ）

スーパーＸ２の発進と戦闘を想定の躍動的な冒頭部から、大空を悠然と飛行するイメージの雄大な中間部を経て、華々しいグランド・フィナーレへと連なっていく、壮大なスケールの“スーパーＸ２のテーマ”。オーケストレーションを担当したＤ・ハウエル氏のスコアには＜Ｍ－１０、Ｅｎｄｉｎｇ＞と記されていた。本曲も映画用音楽マスターからの収録だが、特にこの曲ではサントラ盤では残響感に埋没しているオーケストレーションの細部を確認することが出来る。

前半部はスーパーＸ２の発進からゴジラとの戦闘シーン等に使用され、中間から後半はエピローグで、海に帰っていくゴジラとそれを見送る人々と英理加（沢口靖子）のモノローグにかけて流れ、さらに宇宙空間に大輪のバラが咲くエンディングのローリングタイトル迄に使用された。

『ゴジラＶＳビオランテ』録音データ
録音日：1989年11月14日～15日
スタジオ：サウンド・イン
ミキサー：行方洋一、大野映彦
指揮：デービッド・ハウエル、すぎやまこういち

ゴジラvsキングギドラ

音楽監督：伊福部　昭
1991年12月14日公開／カラー／ビスタサイズ／103分
製作：田中友幸／プロデューサー：富山省吾
脚本・監督：大森一樹　特技監督：川北紘一
出演：豊原功補、中川安奈、西岡徳馬、土屋嘉男ほか

1992年、東京上空に飛来したＵＦＯは富士山麓に着陸し、日本政府に会見を申し込むメッセージが送られる。同じ頃、ノンフィクションライターの寺沢（豊原功補）は、太平洋戦争中ラゴス島守備隊長で、戦後の日本経済を支えた帝洋グループの総裁新堂靖明（土屋嘉男）に面会し、ラゴス島に生存した恐竜が、１９５４年のビキニ環礁の核実験の影響で今日のゴジラと化したという自説に確信を持つ。ＵＦＯには、2204年の地球連邦機関に属する３人の未来人が搭乗しており、林田首相（山村聡）にゴジラによる23世紀の危機を伝え、ラゴス島の恐竜を歴史から抹消する提案をする。未来人のひとり、エミー（中川安奈）とともにタイムワープした寺沢らは玉砕寸前の守備隊と米軍を蹴散らす恐竜を目撃。一行は傷ついた恐竜をベーリング海にトランスポートさせた後に現代に帰還するが、彼らを待っていたものは、ゴジラの消滅と引換えにキングギドラが出現したとの報だった。すべては未来人の策略だったのだ。

前作でゴジラ映画に新風を巻き込んだ大森一樹と川北紘一が、再びコンビを組んで送る平成ゴジラＶＳシリーズ第２弾。本作では、かつてのゴジラの最大、最強のライバル怪獣キングギドラをスクリーンに甦らせ、１対１の夢の対決を実現させている。東宝特撮映画の魅力である怪獣物、空想科学物、戦記物の各要素をたっぷりと盛り込み、現代、過去、未来と目まぐるしく展開するストーリーは映画ならではの娯楽性に溢れたもの。中でも、ラゴス島の恐竜が核の洗礼を受け、ゴジラが誕生するくだりは、ゴジラ映画の世界観を広げることに寄与している。

キャスト面では、東宝特撮映画の常連だった土屋嘉男が久々に登場、重厚に帝洋グループの総裁新堂を演じているほか、ゴジラ映画初の女性ヒーローに挑戦した中川安奈の熱演ぶりも記憶に新しい。スタッフ面でのトピックスとしては、伊福部昭が音楽監督として全編の音楽を担当、特撮の川北紘一は「日本アカデミー賞・特殊技術賞」を受賞したことが挙げられよう。

9 ゴジラザウルス（Ｍ13Ｂ）

1944年（昭和19年）２月６日、太平洋戦争末期のマーシャル諸島ラゴス島日本軍守備隊は、折からの米軍の激しい艦砲射撃の前に、悲壮な決意を固めていた。遂に上陸を開始する米軍に対して、新堂以下の日本軍守備隊は決死の総攻撃をかける。圧倒的兵力を誇る米軍の前に玉砕寸前の守備隊だったが、その時、彼らの眼前に信じがたい出来事が起こった……。

曲はジャングルでの交戦中に巨大な恐竜が出現し米軍兵士たちを蹴散らすシーンの音楽で、ゴジラの前身である恐竜・ゴジラザウルスのモチーフの最も大きな編成である。低音金管が奏でるテーマの反復と、その直後の一瞬の静寂が印象的である。

10 自衛隊出動（Ｍ６）

1992年（平成３年）、現代。突如、東京上空に銀白色の空飛ぶ円盤が出現し、日本中を騒然とさせた。やがて円盤は表富士山麓の原野に着陸、円盤を包囲するために陸上自衛隊の重火器部隊が集結する。

この映画のために新たに書き下ろされた自衛隊のテーマだが、『怪獣総進撃』のマーチが下敷きとなっている。金管群の勇壮なテーマをヴィブラフォンのメタリックな響きが包み込む、伊福部サウンドの新たな展開である。この映画でヴィブラフォン（共鳴筒付きの鉄琴。伊福部昭はこの楽器を減衰振動楽器と称し、我々を煙に巻く）は、未来人の音色として扱われているが、デジタル楽器が全盛の現在においてヴィブラフォンというアナログ楽器一本でＳＦ的音響空間を創造する伊福部昭の懐の深さには舌を巻く。

この自衛隊出動シーンの他に、札幌市街に出現したゴジラに対して、陸上自衛隊の特殊光線砲・メーサー部隊が出動するシーンにも使用されている。

⑪キングギドラ福岡襲撃（M18B）

未来人のエミーによって太平洋戦争末期のラゴス島に置き去られた３匹のドラッド（遺伝子工学によって生み出された未来の生命体）は、後のビキニ環礁の核実験の影響を受けて彼らの思惑通りの超怪獣キングギドラへ変貌を遂げた。時空を越えて現代に出現したキングギドラは福岡上空に飛来、破壊の限りを尽くす。

1964年のキングギドラのデビュー作『三大怪獣　地球最大の決戦』で作曲されたホルンのグリッサンドによるギドラのモチーフに、’62 年の『キングコング対ゴジラ』でタイトルロールの二大怪獣が激突するシーンに書かれたオスティナート音形を合成した、平成版キングギドラのテーマ。

『ゴジラVSキングギドラ』録音データ
録音日：1991年９月２日～３日
スタジオ：東宝撮影所録音センター
レコーディングエンジニア：大野映彦
指揮：今井　聡

ゴジラVSモスラ
GODZILLA vs MOTHRA

音楽監督：伊福部　昭
1992年12月12日公開／カラー／ビスタサイズ／103 分
製作：田中友幸／プロデューサー：富山省吾／脚本：大森一樹
監督：大河原孝夫／特技監督：川北紘一
出演：別所哲也、小林聡美、小林昭二、宝田　明ほか

バブル最盛期の199X年。20世紀最後の神秘、南海の孤島インファントにも、日本のバブルマネーの介入が進んでいた。島のリゾート化を進める丸友観光の森林伐採が続く中、現場付近の土砂崩れ跡から巨大な卵が発見された。卵と共に出現した小美人コスモス（今村恵子、大沢さやか）は、同島の調査に訪れた藤戸拓也（別所哲也）らに、卵は島の守護神モスラのものだと訴え、破壊本能のみの怪獣バトラの覚醒を予言する。

丸友観光の社長、友兼（大竹まこと）の思惑で、巨大な卵は日本に輸送される。航海の途中、謎の隕石落下によって目覚めたゴジラが海上に出現、卵から孵った幼虫モスラとの戦いを繰り広げる。さらに北極海の氷山の中から出現したバトラも加わって激しさを増す三つ巴の戦いは、海底火山の爆発によって終結を迎え、ゴジラはフィリピン海溝に姿を消す。一方、丸友の安藤（村田雄浩）がコスモスを拉致、彼女らを救うべくモスラは自衛隊の防衛線を突破して東京に上陸。国会議事堂に繭を掛け成虫へと変態を遂げると、富士山麓火口から復活したゴジラ、バトラとみなとみらい21地区で最後の死闘を繰り広げる。

年々高まるゴジラ人気は、年１作のゴジラ映画の製作体制を現実のものとし、かつてのゴジラの対戦怪獣が次々とスクリーンに甦ることとなった。本作では、過去ゴジラに唯一勝利したモスラが、子供や女性の圧倒的な人気に支えられて復活している。

脚本を担当したのは、以前からモスラを題材にした怪獣映画の企画を温めていた大森一樹。年々進行する地球環境の破壊を作品のメインテーマに、ゴジラ、モスラ、そしてビオランテ以来の新怪獣、正義の怪獣モスラに対するバトルモスラ＝バトラの３大怪獣による極彩色の大決戦が地球規模で描かれている。ゴジラ映画史上７人目の監督には、前年に『超少女ＲＥＩＫＯ』でデビューし、その演出力を高く評価された大河原孝夫が抜擢されている。『モスラ』ほかで小美人と呼ばれたキャラクターにはコスモスの名が与えられ、第３回東宝シンデレラに選ばれた今村恵子と同特別賞受賞の大沢さやかの２人がファンタスティックに演じている。

⑫モスラ赤坂へ（MモスラＳｌｏｗ）

丸友観光の手に落ちたコスモスを救出に東京湾に入ったモスラの幼虫が海上自衛隊の攻撃を受けるシーンや、東京に上陸したモスラが赤坂付近を建物を破壊しながら進行するシーン等に流れたモスラのテーマ。映画のメインテーマとも云うべき“聖なる泉”と“マハラモスラ”の金管楽器主体のバリエーション。時折表出する、伊福部怪獣音楽の象徴であるトランペットのフラッターやコンボオルガンのうねりが、モスラも人類の脅威の存在＝怪獣であることを主張する。

⑬メーサーマーチ（M32）

フィリピン海溝に消えたゴジラは、地底のマグマの中を進んで富士山に出現、東京方面に南下を始める。自衛隊はゴジラの首都圏侵入を阻止すべく、メーサー部隊を丹沢付近に緊急配備する。

平成ゴジラシリーズの名脇役、自衛隊の特殊光線兵器メーサー部隊のマーチ。オリジナルは架空兵器のメーサー光線車が初めて東宝特撮映画に登場した、1966年の『フランケンシュタインの怪獣　サンダ対ガイラ』で作曲された通称“Ｌ作戦マーチ”である。金管楽器と弦楽器が織り成すカノン風の展開の妙味は『キングコング対ゴジラ』の“キングコング輸送作戦”と双璧であろう。

⑭バトラ（Fast・Full）（MバトラFast・Full）

新キャラクター・バトラのために伊福部昭が書き下ろした“バトラのテーマ”をファストテンポによるフルサイズ・ヴァージョンにて収録した。鋭角的な金管楽器のオクターヴのユニゾンと迫力のあるグリッサンドが、バトラの攻撃性を象徴している。

⑮エンディング（聖なる泉）

巨大な蛾の姿に成長を遂げたモスラは、コスモスが予言する今世紀末に地球に衝突するという巨大隕石の軌道を変えるために宇宙へ旅立つ。

勢揃いしたメインキャストに見送られてモスラが宇宙の彼方に飛び去って行く、ローリングタイトルの音楽。メインテーマ“聖なる泉”のメロディだが、オリジナルは1964年の『モスラ対ゴジラ』でザ・ピーナッツが歌っていたものだ。

『ゴジラＶＳモスラ』録音データ
録音日：1992年9月1日～2日
スタジオ：東宝撮影所収録センター
レコーディングエンジニア：大野映彦
指揮：今井　聡

ゴジラVSメカゴジラ

音楽監督：伊福部　昭
1993年12月11日公開／カラー／ビスタサイズ／100 分
製作：田中友幸／プロデューサー：富山省吾／脚本：三村　渉　監督：大河原孝夫　特技監督：川北紘一

出演：高嶋政宏、佐野量子、原田大二郎、佐原健二ほか

たび重なるゴジラの脅威に対して、国連は筑波に国連G対策センターを開設。対G兵器1号機ガルーダの開発に続いて、メカキングギドラの残骸から23世紀の先端技術を分析し、究極の戦闘マシン「メカゴジラ」を完成させる。ロボット技師の青木一馬（高嶋政宏）は、そのGフォースへの転属を命じられた。そのころ、ベーリング海のアドノア島で太古の翼竜プテラノドンの化石と孵化前の卵が発見された。調査に訪れた日本の国立生命科学研究所の大前博士（川津祐介）、五条梓研究員（佐野量子）らがヘリコプターで卵を運びだそうとした時に、空の大怪獣ラドンが出現した。突如、海中から出現したゴジラがラドンと激闘を繰り広げるのに乗じて、島から卵を運び出すことに成功する一行だった。

京都の生命科学研究所に収められた卵。そこから生まれたのは、プテラノドンならぬゴジラザウルスの子供、ベビーゴジラだった。一方、伊勢湾に出現したゴジラは、四日市のコンビナートを破壊、西に進行する。ゴジラ出現の報にメカゴジラは直ちに出動、両雄は鈴鹿山中で相まみえるが、メカゴジラはシステムのオーバーヒートにより敗退してしまう。勝利の雄叫びをあげ京都へと進撃するゴジラをGフォースの戦闘部隊が迎撃するが……。

ゴジラ生誕40周年・ゴジラシリーズ第20作目の記念すべき本作には、無敵のゴジラに対し人類の最新科学技術の粋を集めて建造された“対ゴジラ戦用最終兵器”メカゴジラが登場。そして、東宝3大怪獣キャラクターの一つ、空の大怪獣ラドンも26年振りに復活、さらに、ゴジラの赤ん坊ベビーゴジラも登場するという賑やかなものとなった。『ゴジラｖｓビオランテ』以降、日本全国各地を暴れまわるゴジラらは、今回も北はベーリング海から、青森、四日市、京都、そして東京新都心幕張ベイエリアまで所狭しと激闘を繰り広げる。

全地球規模でゴジラに対抗すべく組織された国連G対策センターをストーリーの中核に、ゴジラとメカゴジラの戦いと、ベビーゴジラを巡るゴジラ・ラドンと人類の争奪戦がスピーディな演出によって描かれている。前作からメガホンをとった大河原孝夫と、職人的な旨さで平成ゴジラを撮りつづける川北紘一が、前作以上に息のあったところを見せた。

⑯メカゴジラ出撃準備（M11）

G対策センターのメインドック内でのメカゴジラ発進プロセスに流れる“メカゴジラのテーマ”。メカゴジラの全貌が明らかになる前半の見せ場であり、川北紘一特技監督入魂のメカ特撮が堪能できる。どことなく時代劇を思わせる重厚な旋律だが、原点のひとつに工藤栄一監督の集団時代劇の傑作『十三人の刺客』（1963年・東映京都）らがある。弱き者たちが力を合わせて強敵に挑むという両者共通の図式からしても、伊福部昭の一貫したテーマ設定の思想がうかがえる。

⑰Gフォースマーチ（M16）

Gフォースとは、対ゴジラを目的に各界選りすぐりの精鋭たちで結成された、G対策センター直属の防衛組織である。

メカゴジラを退け京都へ進路を取ったゴジラを大津付近で迎撃するGフォース戦闘部隊のバックに流れたシンフォニックマーチ。系統的には「メーサーマーチ」の延長上にあるが、その身上であるカノン的な展開はここでは全く見られない。

⑱ゴジラVSラドン（M6）

アドノア島は使用済核燃料の格納場所であり、本作品の新生ラドンは放射能の影響で甦った翼竜が巨大化したものとの設定。ラドンによって調査団一行は島の断崖に追い詰められるが、その時、海面からゴジラが出現し二大怪獣の激闘が始まった。

“ゴジラの恐怖”と“ラドンのテーマ”の二大怪獣のモチーフが交互に登場するという豪華な構成で、かっての『三大怪獣　地球最大の決戦』を彷彿とさせる。演奏時間も5分を越える大曲だ。

「ゴジラVSメカゴジラ」録音データ
録音日：1993年8月28日〜29日
スタジオ：東宝撮影所録音センター
レコーディングエンジニア：大野映彦
指揮：今井　聡

ゴジラ スペースゴジラ

音楽：服部隆之　ゴジラテーマ曲：伊福部　昭
1994年12月10日公開／カラー／ビスタサイズ／108分
製作：田中友幸／協同製作：富山省吾／脚本：柏原寛司
監督：山下賢章／特技監督：川北紘一
出演：橋爪　淳、米山善吉、吉川十和子、柄本　明ほか

G対策センターではゴジラに対する二つのプロジェクト（メカゴジラに代わる新対G兵器、MOGERA（モゲラ）の開発によるMプロジェクトと、ゴジラをテレパシーで操るTプロジェクト）が進行していた。一方、三枝未希（小高恵美）の元に現れた妖精モスラの警告通り、宇宙怪獣スペースゴジラが地球に向けて進行を開始。迎撃に出動したモゲラは小惑星帯でスペースゴジラと遭遇するが、その圧倒的な強さの前に敗退してしまうのだった。

その頃、南海のバース島では、只一人でゴジラ打倒に執念を燃やすGフォースの結城（柄本　明）をよそに、新城（橋爪　淳）らの手でTプロジェクトが実行され、テレパシー増幅装置を打ち込まれたゴジラは未希のテレパシーで操られるが、上空にスペースゴジラが出現し、島内の結晶体にリトルゴジラ（ベビーの成長した姿）を幽閉してしまう。怒りに震えたゴジラはテレパシーを絶ち切り、ここに二大ゴジラの戦いが始まった！

ゴジラシリーズ21作目の本作には、かつてのビオランテに続いてG（ゴジラ）細胞から進化、誕生したゴジラの分身とも言うべき宇宙の破壊神スペースゴジラが登場。前作で破壊されたメカゴジラに次いでG対策センターが開発した新対G兵器MOGERA、南太平洋のバース島のリトルゴジラ、宇宙に去ったモスラの使い・妖精モスラらのキャラクターを、過去の平成VSシリーズ4作のメイン要素としてすべて盛り込み、更にゴジラと戦う男たちのロマンと、三枝未希のラブストーリー等の新たなサイドストーリーを絡めて、シリーズの集大成を狙ったネオゴジラムービーを確立している。山下賢章が8人目のゴジラ映画監督としてメガホンをとり、エネルギッシュな脚本はTVドラマで活躍する柏原寛司が担当、音楽の服部隆之は初のゴジラ映画に挑戦し、新たなゴジラのテーマ曲を始めとした様々な楽曲で映画音楽の醍醐味を満喫させてくれる。

⑲スペースゴジラ・テーマ－破壊神降臨－II
（スペースゴジラ・テーマ《テンポ・アップ》）

『ゴジラｖｓスペースゴジラ』のブロックは、いずれも映画公開時に発売されたサントラ盤ではフルサイズを聴くことができない楽曲だけで構成した。未収録曲とは言え、いずれも映画を代表するライトモティーフの変奏曲であり、1曲を除いて作品中に使用されたものなので、ベスト盤の趣旨に決して反しない選曲になっていると思う。

まずは、極めて重厚な楽想をもったスペースゴジラのテーマをアップテンポで演奏したもの。札幌、神戸、そして福岡と、スペースゴジラが日本列島を縦断して飛行する場面に用いられている。

⑳リトルゴジラの悪戯（フルサイズ）（M16）

結城の活動シーンに多用されたのが、躍動するパーカッションによる"人間サスペンス"の主題。それに準じたリズムパターンに、ユーモラスなリトルのテーマメロディを絡めたのが本曲である。

作品中では、結城が対ゴジラの目的で海岸に埋めた地雷群をリトルが爆発させてしまうくだりで使用された。『完全盤』には劇中使用サイズに短縮したもののみ収録されており、このフルサイズは今回が初公開。

㉑ゴジラ・テーマⅡ
（ゴジラ・テーマ《テンポ遅め》）

本作品のゴジラは、ＶＳシリーズ中、最も人間寄りの活躍を見せるということで、服部氏によるメインテーマ曲も、スネアドラムの響きも勇ましいヒロイックな曲調を帯びることになった。ここに収めたのは、福岡タワーを背に万全の体制で待ち受けるスペースゴジラと、堂々たる歩みで宿命の戦いに向かう我らがゴジラがついに対峙する、興奮の名シーンに用いられたゴジラテーマのスローヴァージョン。『完全盤』に「ゴジラ・テーマ」として収録された音楽は、本曲からトラックダウンでリズムパートを抜いたテイクである。

㉒MOGERA Ready to Go Ⅱ
（モゲラ出動42"）

服部氏は、本作品に登場する個性的な怪獣キャラクターの内、妖精モスラ（『ｖｓモスラ』から「聖なる泉」を使用）を除く４体に、それぞれいずれ劣らぬ魅力をもったライトモティーフを与えている。内、モゲラのテーマ音楽は、細かく刻まれるリズムパートに金管群が高らかなフレーズを乗せる高揚感にあふれたもの。ワイドショーなどでの流用でもすでにお馴染みとなった感があるが、演奏時間の短いのは惜しまれる。ここでは、劇中未使用の42秒ヴァージョンを初公開！

㉓Hyper Battle Area Ⅱ
（サスペンス《テンポ・ダウン》）

スペースゴジラのテーマと並んで、本作品で最も強烈な印象を残すナンバーが、この「Hyper Battle Area」だ。弦楽器が激しいリズムを刻む中、金管群が鋭い差し込みを入れるＡ・Ｃパート、それらに挟まれた流麗な展開を見せるＢパートと、人間側のサスペンスシーンに幅広くマッチする柔軟さを備えたナンバーである。収録のテンポ・ダウン・ヴァージョンは、ダメージを受けたモゲラにスペースゴジラが執拗に迫り来るシーンで用いられた。

『ゴジラＶＳスペースゴジラ』録音データ
録音日：1994年８月28日～29日
スタジオ：サウンド・シティ・スタジオ
レコーディングエンジニア：大野映彦
指揮：服部隆之

ゴジラVSデストロイア

音楽監督：伊福部 昭
1995年12月９日公開／カラー／ビスタサイズ／103分
製作：田中友幸、富山省吾／脚本：大森一樹
監督：大河原孝夫／特技監督：川北紘一
出演：辰巳琢郎、石野陽子、林 泰文、河内桃子ほか

百万ドルの夜景をほこる香港に、体表を赤く発光させたゴジラが突如出現した。市街を破壊したゴジラは、Ｇサミット（ゴジラ専門者研究会議）の分析により、体内で核分裂を起こしており、最悪の場合には核爆発によって地球全体が炎に包まれることが判明する。

片や、謎の事故が続発する東京湾海底トンネルの工事現場では、物理学者の伊集院（辰巳琢郎）が、40年前にゴジラを葬ったオキシジェン・デストロイヤーの影響で、変化した地層に誕生した生物の存在をつきとめる。ミクロオキシゲンを吐き、全てを破壊する生物は成長を続け、臨海副都心に出現。出動した自衛隊の冷凍攻撃を跳ね返し、より巨大な生物デストロイアに進化する。香港襲撃後、日本に近づくゴジラはＧ対策センターの作戦でジュニア（リトルゴジラの成長した姿）に誘導され東京に上陸。デストロイアによって息絶えたジュニアの亡骸の前で、メルトダウン寸前のゴジラ最期の死闘が始まった。

毎年１作づつ製作されてきた平成ゴジラシリーズは、遂に本作で完結を迎える。多くの怪獣と激闘を繰り広げてきたゴジラは、本体自らが暴走する巨大な原子炉と化し、クライマックスで劇的な最期を迎えることとなった。対戦する新怪獣は、第１作『ゴジラ』で、ゴジラを東京湾の海底に葬ったオキシジェン・デストロイヤーの影響により、41年の時を経て海底の地層から誕生したデストロイア。デストロイアは、すべての敵を抹殺し次々にその姿を進化させる、現在の地球上の生態系とは異なった完全生命体であり、首都東京を舞台に、死に向かって暴走するゴジラとジュニアとの間に空前絶後の死闘を繰り広げる。

脚本・大森一樹、監督・大河原孝夫、特技監督・川北紘一、音楽監督・伊福部昭ら、シリーズ最高配収を記録した『ゴジラｖｓモスラ』の最強スタッフが再集結、河内桃子の出演も第１作との繋がりを深め、まさにシリーズ完結編にふさわしい作品に仕上げられている。

㉔メインタイトル・香港破壊（Ｍ３）

香港の啓徳国際空港。滑走路から大空へ飛び立った旅客機は、海面の突然の盛り上がりに行く手を阻まれる。海中から出現したのは赤い竜……全身を激しく赤色に発光させたゴジラだった！

中国への返還を目前に控えたアジアの至宝都市・香港。そこに現れるは、暴走する原子炉と化したゴジラ。ゴジラシリーズ42年の歴史にひとまずの終止符を打つ大任を背負った本作の幕開けには何とも相応しい、象徴的名場面となった冒頭シーンの音楽である。

前半は、ゴジラの身に起きた異常を示すため、ストリングス抜きの変則的な編成によって奏されたゴジラ・テーマのヴァリエーション。メインタイトルが映し出させる際のブリッジを挟み、後半は、ゴジラが香港の街を蹂躙するくだりにつけられた、これ以外の場面ではデストロイアのテーマとして用いられている主題。両曲を併せて、本作品のメインテーマ的な扱いとなっている。

㉕レクイエム（M44A《フルサイズ》）

ついにゴジラの体内温度は1200度を超え、その全身は白く発光しながらメルトダウンを起こしていく！溶けていくゴジラ!! 強大な力を誇示した世紀の怪獣王は、その自らの先鋭化し過ぎた能力自体によって滅んでいくのだった……。

収録曲は、ゴジラの死という本作品最大のクライマックスに流れる神々しいまでの楽想を与えられた鎮魂歌。本曲が、誰あろう伊福部昭本人の手によって生み出されたことに、すべてのゴジラファンは感慨を禁じ得ないであろう。数奇な運命から贖罪を背負わされた一匹の巨獣の魂を天上に導く歌声のようにコーラスが響き、ゴジラのテーマモティーフの断片が、長い連れ添いだった彼の死によって浄化されたかのごとく、優しい上昇音形でそれに追随していく。まさに音楽による圧巻の演出である。

なお、本曲には、該当シーンの長さに合わせて同一譜面の一部をはしょって演奏したM44Aというヴァリエーションが存在するが、演奏自体の出来が良いことから、実際の作品では本曲の方を短縮編集を施して使用している。

㉖**新たなゴジラの誕生（M44B）**

すべてが終結し、廃墟と化した首都・東京。その放射能の霧の中、青い光芒を背負って立つ巨獣の姿がひとつ……。それは死んだはずのゴジラの幻なのか、はたまたゴジラのエネルギーを受けてミューテーションしたジュニアの姿なのか？

当初、音楽を入れる予定はなかったファイナルカット。録音現場で伊福部氏は『ｖｓメカゴジラ』でベビーゴジラの主題として用い、本作でもジュニアのシーンで多用した叙情的なメロディを急遽入れることを決め、低弦とハープというコンパクトな編成でこのM44Bを録音した。ラストカットの巨獣の姿が完全にゴジラ化したジュニアであるとの、いかにも首尾一貫した氏の映画音楽理論に貫かれた設計である。が、最後の映像については不明瞭なままにしておきたいという製作側の願いから、やはり本曲はフィルムのファイナルカットからはオミットされることになった。

一映画音楽ファンとしては、どちらの判断も正しいように思える。本盤では、映画音楽の奥深い魅力を何よりも雄弁に物語ってくれる運命を辿った本曲を敢えてここに配することによって、ダビングの最後の瞬間まで最良の作品を生み出すべく苦闘を続けた映画作りのプロフェッショナルの方々への称賛の表明としたい。

『ゴジラｖｓデストロイア』録音データ
録音日：1995年10月27日～28日
スタジオ：東宝撮影所録音センター
レコーディングエンジニア：大野映彦
指揮：今井　聡

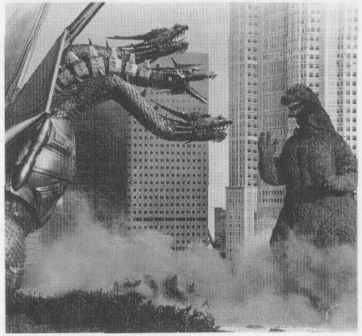
㉗**ゴジラは死なず**
（『ゴジラｖｓキングギドラ』よりM38、23A）

そう、ゴジラは死なない。『ゴジラｖｓデストロイア』はシリーズの完結編であって、決して最終作ではないのだから。

ゴジラは再び眠りに就いた。長きにわたって僕らをワクワクさせ、怖がらせ、そして笑わせてもくれた偉大なるスタアの肖像を、それぞれの思い出の銀幕に投影させつつ、彼が呼び戻される日を待ちたいと思う。

ラストソングは『ゴジラｖｓキングギドラ』のローリングタイトルにつけられた「ゴジラのテーマ」を選んだ。さようならゴジラ。その雄姿よ永遠なれ！

早川　優、大塩一志、中村　哲



COLUMN

ゴジラ映画の歴史
(1979～1995)

1954年の『ゴジラ』から15作続いたゴジラシリーズも1975年の『メカゴジラの逆襲』で終了、またチャンピオンまつりでのリバイバルも1977年の『キングコング対ゴジラ』を最後に、ゴジラはいったん長い眠りへとついた。しかし、常に東宝はゴジラの復活めざし日米合作の企画などいろいろな試行錯誤を重ねていた。もちろん、その間もかつてのゴジラファン、そしてまだ映画館でゴジラを見たことのない世代のファンたちのゴジラ人気は消えることがなく、「ゴジラ映画大全集」('79)や『モスラ対ゴジラ』('80)などのリバイバルも行なわれてそれぞれ好評を博したが、その時点には残念ながらゴジラ復活までには至らなかった。

しかし、このころから徐々に映画館でのオールナイト上映やテレビ放送などが増え始め、最初は静かなブームだったゴジラもやがてマスコミまでもがとりあげるほどの大ブームへと発展し、東宝も新作ゴジラの企画を進めるとともに「ゴジラ復活フェスティバル」('83)というリバイバルを開催、これが大ヒットとなり新作ゴジラの製作にさらに拍車をかけることとなった。そして1984年冬、ついにファン待望の『ゴジラ』('84)が製作・公開され、劇場はかつてのゴジラファンやはじめてゴジラを体験する子どもたちで埋めつくされた。当時の金額で15億をかけた超大作として製作された本作では、ゴジラは最新の特撮技術によって見事にスクリーンによみがえり、その不滅のパワーを見せつけてくれたのである。また本作は第1作『ゴジラ』の直接の続編として位置づけられ、『ゴジラの逆襲』～『メカゴジラの逆襲』までの流れを断ち切った“ゴジラ第2シリーズ”とも言うべき流れを作り、ゴジラというキャラクターを過去の設定にとらわれない自由な発想で現代に復活させることに成功した。

しかし、この『ゴジラ』では怪獣はゴジラ1匹が登場するのみで、かつてのゴジラシリーズを支えていた魅力のひとつである怪獣同士の対決は描かれなかったため、怪獣対怪獣の大バトルを期待するファンはその後の新作に大きな期待を寄せていた。そこで、制作側もファンの期待を裏切らないために次回作までには相当の準備期間が設け、ファンからのストーリー公募や新しい人材捜しなどのさまざまな検討を行なった。その結果前作から5年のブランクをへて製作されたのが、じつに14年ぶりの怪獣対決作品『ゴジラVSビオランテ』('89)である。ゴジラと新怪獣ビオランテによる久々の怪獣対決は非常に迫力をもって描かれ、またその洒落た雰囲気とスピーディな作風はその後の新ゴジラシリーズの基礎を築くものとなった。

また、このころから「かつてのライバルとゴジラとの激戦をもう一度見たい！」という声も高まったため、続く『ゴジラVSキングギドラ』('91)ではゴジラ最大のライバル・キングギドラを復活させ大いに話題を呼んだ。また本作は特に“ゴジラというキャラクターを使ってどんなことが描けるか”というテーマに重点をおき、戦争映画やタイムトラベルなどさまざまな要素を取り入れた、映画全盛期のころの東宝という映画会社の特色であった“ヴァラエティ豊かで華やか”な作品となり、東宝創立60周年記念作品にふさわしい出来となった。

この『VSビオランテ』『VSキングギドラ』で完全に勢いに乗ったゴジラ第2シリーズはその後毎年1本づつ製作されるようになったが、翌年の『ゴジラVSモスラ』('92)では思い切ってゴジラを脇役にまわし、ゴジラと並ぶ人気を誇る名キャラクター・モスラを復活させた。さらに“悪のモスラ”とも言うべき新怪獣バトラも登場させ、“極彩色の大決戦”というキャッチフレーズどおりの非常に色彩豊かな明るい作品となった本作は、特に女性ファンの熱烈な支持を得て、東宝正月映画としての配収新記録を打ち立てるほどの大ヒットとなった。

続く『ゴジラVSメカゴジラ』('93)では、かつてのシリーズ末期にゴジラを凌ぐほどの人気を勝ち得ていたメカゴジラを今度は人類の味方として復活させ、加えて同じく人気怪獣のラドン、さらに新怪獣ベビーゴジラを登場させ、前作を凌ぐ壮絶なバトルが描かれることとなった。またこのころにはストーリーに登場する地方・名所なども注目の的となっており、『VSキングギドラ』の札幌や新宿、『VSモスラ』の名古屋や横浜などに続いて、ついにゴジラが日本を代表する古都・京都に出現するということで大きな話題を呼んだ作品でもあった。

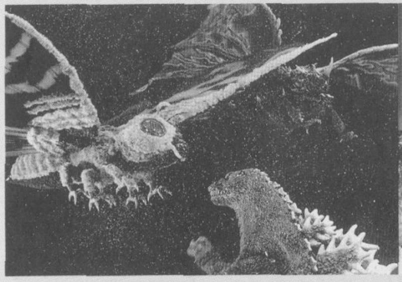
翌年の『ゴジラVSスペースゴジラ』('94)は、久々に新怪獣スペースゴジラを敵役に据え、さらに今度は舞台を宇宙や地底などにまで広げた壮大な作品として製作された。東宝特撮映画の名脇役であるモゲラを復活させたり、前作で誕生したベビーゴジラを昔のミニラのような可愛らしいリトルゴジラに変化させたりと、オールドファンや女性ファンなど幅広い層にも親しまれるようにとの工夫なども随所に見られ、どちらか言えば“カッコイイ”というよりも“楽しい”映画とをめざした作りとなっていた。

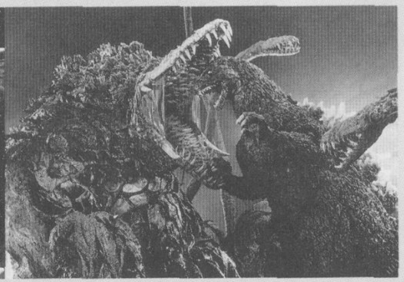
……しかし、新シリーズ再開から11年、特に'91年からは5年連続で製作され活躍し続けてきたゴジラも、いろいろな意味でそろそろリニューアルが必要な時期だと考えた東宝は、まだまだゴジラが人気のあるうちにゴジラシリーズをいったん終了させることに決定した。そして最新作『ゴジラVSデストロイア』('95)において、無敵のゴジラもついにその死を迎え、『ゴジラ』('84)から11年続いたゴジラ第2シリーズもその幕を閉じることになったのである。

だが、たとえゴジラは死んでも、今回のシリーズでまた新たなファンをたくさん開拓したゴジラの人気は不滅である。いつかまた、『ゴジラVSデストロイア』のラストで新たに誕生したニュー・ゴジラを主役にした“ゴジラ第3シリーズ”が開始されることを祈りながら、このCDでゴジラ40余年の歴史をもういちど振り返ってみることにしよう。

高鳥　真







ゴジラ映画リスト（1979～1995）

タイトル

脚本／監督／特技監督／音楽

公 開 日

Rゴジラ映画大全集（※1）

1979. 8. 2

Rモスラ対ゴジラ

1980. 3.15

Rゴジラ復活フェスティバル（※2）

1983. 8. 6

16 ゴジラ

永原秀一／橋本幸治／中野昭慶／小六禮次郎

1984.12.15

17 ゴジラVSビオランテ

大森一樹／大森一樹／川北紘一／すぎやまこういち

1989.12.16

18 ゴジラVSキングギドラ

大森一樹／大森一樹／川北紘一／伊福部 昭

1991.12.14

19 ゴジラVSモスラ

大森一樹／大河原孝夫／川北紘一／伊福部 昭

1992.12.12

20 ゴジラVSメカゴジラ

三村渉／大河原孝夫／川北紘一／伊福部 昭

1993.12.11

21 ゴジラVSスペースゴジラ

柏原寛司／山下賢章／川北紘一／伊福部 昭

1994.12.10

22ゴジラVSデストロイア

大森一樹／大河原孝夫／川北紘一／伊福部 昭

1995.12. 9

※1：「キングコング対ゴジラ」「キングギドラ対ゴジラ」「ゴジラ対メカゴジラ」の3本立をリバイバル公開。

※2：「ゴジラ」「怪獣大戦争」、「キングコング対ゴジラ」「モスラ」、「キングコングの逆襲」「ゴジラ対メカゴジラ」、「モスラ対ゴジラ」「ラドン」、「地球最大の決戦」『海底軍艦」のそれぞれ2本立を3日づつリバイバル公開。

作品NO.のところに「R」とあるのはリバイバル公開を示す。

INTERVIEW

作曲家・伊福部 昭氏に聞く



いわゆるゴジラのメインテーマは（1954年『ゴジラ』のメインタイトルのテーマ）、今度は本編では使いません。ただし、ローリングタイトルは、最初のゴジラの、丘からぴょこっと顔出すあの最初のシーンですね、それから出てくるもんですから、それなら、こっちもやっぱりそういうふうに出ようじゃないか、ということで使いました。

とにかくゴジラというとあれがでてくるんですよね。田中首相のお嬢さんが出るときでもやっぱりすごい女性だというんでどこの放送局かがゴジラをかけましたがねえ。で、まあ、そんなとこへ使われたり、みなさん知ってるもんですからね、故意に避けて書いてもしょうがないし。

ローリングタイトルを遅いレクイエムでやるという手もあるんですけどね、レクイエムで人の名前が出て、ひょっとしたらこれは失礼かも知れないというんで、縁起かつぐ人いますからね。それで最後は、リズミックにやったんですけど。

あのゴジラっていうのは、まあアンチモダンというか…日本はアメリカに戦争で負けたんですけども、なんで負けたかというとやっぱりテクノロジーに敗れたんですね。それからあとはずーっともう科学がどんどんアメリカから入ってきたけども、それらがこう、日本を支配しだしたときに、現代の科学で作ったものが、全部ゴジラに通用しないんですね。何撃ってもダメ。そのアンチ・テクノロジーというようなポリシー、それが主題だというふうに、わたしはすぐ読みとりましたけども、そういう核に代表されるテクノロジー全般を認めながら、現代のテクノロジーを批判していく

というような、不思議な立場にある作品でしたね。
今度のは河内桃子さんも出てるしね、志村さんも出てる、それから平田さんとか、懐かしいから、まあシーラカンスが出る場所かな、と思って出てきたんですけど。４０年からがんばってたゴジラがとにかく死ぬわけですから、私自身もゴジラから離れるけど、誕生から見送るところまでという、感慨は多少入ってると思います。
何十メートルなんていう、大きさを出すのにはやっぱり小さなオーケストラではどうしても出ないんですね。それから、メンバーも、どんなものやってるんだかわからないで演奏するのと、演奏する前にスクリーンで画を見るのとでは違います。ゴジラがわーっと出てくる、メンバーがそれを見てると、ああ、こういうことを作曲家がやろうとしているんだな、というのをすぐに読みとってくれますから。演奏会のフォルテでなく、汚くていいから、ばーっとだして下さい、と頼めば、そういう力のある音がでてくる、というようなことが、こういうシャシンの場合ありますね。いくら口でいっても、大きい怪物でるんだよっていっても、小さな場所でやったんでは出来ないと思いますが。経費が無駄なようですけど、結果としては音が違ってくると思います。でもだんだんこういう方式はなくなるんじゃないでしょうかね。
それからあの、電子楽器っていうのも、持ってきてやれる程度のものではやっぱりオーケストラの音とは勝負にならないですね、生命力がなくて。まあ、全ての音は純音の重なりなんですけど、重なりの数が少ないから、ふくらまないんですね。生の楽器っていうのは、音の他に雑音がいっぱいこう、入ってるもんですから、混ぜると、ある種の量感のようなものが出てくる。シンセサイザーをラインでつないだやり方は、うーん、もうちょっと楽器が進歩するか、僕が進歩するかしないと出来ないことだなあ、というふうに思っておりますね。
（1995年11月13日／東宝撮影所・録音センターにて）
取材・構成／森　達・早川　優



作曲家の横顔

●伊福部　昭
1914年５月31日、釧路市に生まれる。独学で作曲を始め、北大卒業後、厚岸の森林事務所に勤務していたが、初の管弦楽作品「日本狂詩曲」が1935年、チェレプニン賞の１位に入賞、世界的な評価を獲得する。また1947年の『銀嶺の果て』で映画音楽にも手を染め、以後日本音楽界、映画音楽界になくてはならない存在となる。芥川也寸志・黛敏郎などを門下から輩出した。

●小六禮次郎
1949年12月13日、岡山県に生まれる。'73 年３月に東京音楽大学を卒業後、作・編曲家としてデビュー。劇場用映画のほか、テレビドラマ、アニメーション、ミュージカル、ＣＭなど、幅広い分野で作品を発表し続ける。
映画音楽の分野では、『寒椿』などの文芸作から『オーロラの下に』などの大作まで自在に書き分ける懐の広さを発揮、後者では日本アカデミー賞を受賞している。

●すぎやまこういち
1931年４月11日東京都に生まれる。東京大学教育学部心理学科卒。文化放送を経てフジテレビに入社、伝説的な音楽番組「ザ・ヒットパレード」では演出にとどまらず、テーマ曲の作詩・作曲まで手掛けた。ザ・ピーナッツの「恋のフーガ」など、ヒットメイカーとして一時代を築いたが、『ドラゴンクエスト』に代表されるゲーム音楽や、テレビ映画音楽にも注目すべき作品が多数存在する。

●服部隆之
1965年11月21日生まれ。父に服部克久、祖父に服部良一という恵まれた音楽環境に育つ。パリ・コンセルヴァトアール国立高等音学院和声科、対位法科に入学。同院終了後に帰国、作編曲家としての活動を開始。幾多の有名アーティストに楽曲やアレンジを提供する一方、文芸大作『蔵』、人気テレビドラマ『王様のレストラン』、劇場用アニメーション『スレイヤーズ』など、幅広いジャンルを舞台に意欲的に作品を発表し続けている。

ジャケット画
●岡田裕治
「ゴジラの蒼き陰」
作者コメント
前回のCDに収められたかつてのゴジラ映画に登場した東京は、いわば安定した都市でした。これに較べ、近年の作品でゴジラが向かっているのはダイナミックに変化し続けている都会です。最近の作品では、人間とゴジラがイタチごっこのような飽くなき戦いを続けています。そうしたゴジラの姿には、映画の内容とは関係なく、変化する周囲の状況に負けまいと無理をしているように感じられるのです。ここらでゴジラも一休みしていただいて、また力を蓄えて来世紀に姿を見せてほしい。故郷の海に抱かれて……。そんな僕個人の想いを、蒼の色調の中に表現しました。



『ゴジラ最期の絶叫!!〜
ゴジラメモリアルCDキーホルダー』

定価1,000円（税込）

完全限定10,000枚

ゴジラ音楽の有名曲がお洒落なキーホルダータイプのＣＤに！
いつでも、どこでもあの「ゴジラのテーマ」が
あなたのそばに！

全国東宝邦画系劇場にて発売

（問合わせ）東宝（株）映像事業本部

03-3591-5504



プロデューサー●**岩瀬政雄（東宝ミュージック）、藤田純二（ＹＯＵＭＥＸ）**
アシスタントプロデューサー●**吉田雅明（東宝ミュージック）**
企画・構成●**大塩一志、中村　哲、早川　優**
企画協力●**Ｔ．Ｓ．Ｒ．**
マスタリング・エンジニア●**小島吉弘**
編集●**岡野宣雄（イーハ・トーヴ出版）**
デザイン●**池上拓生（イーハ・トーヴ出版）**
制作協力●**東宝ミュージック**

〈取り扱い上のご注意〉●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。

〈保管上のご注意〉●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

THE BEST SELECTED MUSIC FROM

GODZILLA

"Now"

1984-1995

TOSHIBA-EMI LIMITED MADE IN JAPAN

ザ・ベスト・セレクテッド・ミュージック・フロム・ゴジラ／"Now" 1984～1995

TYCY-5465

THE BEST SELECTED MUSIC FROM GODZILLA

"Now" 1984-1995

【ゴジラVSキングギドラ】①オープニング（M1A,B）1'52"【ゴジラVSメカゴジラ】②ゴジラのテーマ（M40）3'19"【ゴジラ（1984）】③三原山～新宿副都心（M15）1'19" ④ゴジラ迎撃せよ（M19）1'52" ⑤GODZILLA Theme Madley '84「超高層の救出」～「スーパーXのテーマ」～「防衛隊」（M31, M25, M12A）1'56" ⑥ゴジラ新宿を去る（M40）1'25"【ゴジラVSビオランテ】⑦ゴジラ1989（Movie mix）5'59" ⑧スーパーX 2（Movie mix）5'57"【ゴジラVSキングギドラ】⑨ゴジラザウルス（M13B）2'36" ⑩自衛隊出動（M6）0'39" ⑪キングギドラ福岡襲撃（M18B）3'42"【ゴジラVSモスラ】⑫モスラ赤坂へ（Mモスラ Slow）4'02" ⑬メーサーマーチ（M32）1'55" ⑭バトラ（Fast・Full）（MバトラFast・Full）1'43" ⑮エンディング（聖なる泉）（M37）1'59"【ゴジラVSメカゴジラ】⑯メカゴジラ出撃準備（M11）3'30" ⑰Gフォースマーチ（M16）2'50" ⑱ゴジラVSラドン（M6）5'02"【ゴジラVSスペースゴジラ】⑲スペースゴジラ・テーマ－破壊神降臨－Ⅱ（スペースゴジラ・テーマ<テンポ・アップ>）3'27" ⑳リトルゴジラの悪戯（フルサイズ）（M16）1'39" ㉑ゴジラ・テーマⅡ（ゴジラ・テーマ<テンポ遅め>）3'27" ㉒MOGERA Ready to Go Ⅱ（モゲラ出動42）0'46" ㉓Hyper Battle Area Ⅱ（サスペンス<テンポ・ダウン>）2'34"【ゴジラVSデストロイア】㉔メインタイトル・香港破壊（M3）3'09" ㉕レクイエム（M44A<フルサイズ>）3'49" ㉖新たなゴジラの誕生（M44B）0'34"【ゴジラVSキングギドラ】㉗ゴジラは死なず（M38, 23A）2'54"

Monster Music 1100

制作：（株）ユーメックス

96・1・17 Ⓛ Ⓧ 東芝EMI株式会社 ● STEREO MADE IN JAPAN Ⓟ 1996 ㊢2,000円（税込）（税抜価格1,942円）㊢98・1・16まで

COMPACT disc DIGITAL AUDIO

ザ・ベスト・セレクテッド・ミュージック・フロム・ゴジラ／"Now" 1984～1995